

調 査 速 報

日本海スケトウダラ資源調査結果 ——計量魚探——

北海道立中央水産試験場(0135-23-7451)・稚内水産試験場(0162-32-7177)

函館水産試験場(0138-57-5998)

ホームページアドレス <http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/exp/central/kanri/>

- ・ 全体の分布量は7.4万トンで、2006年の7割。
- ・ 武蔵堆東部～雄冬沖では、漁獲対象魚の体長30cm以上が激減
- ・ 武蔵堆周辺の300m以深に大型群が少し見られる
- ・ 石狩湾は今年の1.8倍でやや多い
- ・ 岩内湾は昨年と同程度
- ・ 桧山海域は1～2割減
- ・ 産卵群は体長40cm前後主体
- ・ 雄冬から利尻礼文沖にかけては体長20cm前後の未成魚が分布

北海道立水産試験場で実施したスケトウダラ計量魚探調査結果をお知らせします。

1. 調査海域と期間

- ・調査期間： 2007(平成19)年9月26日から10月19日
- ・調査海域： 水深200mより深い海域(図1)
- ・試験調査船： 北洋丸(計量魚探, 着底トロール)
おやしお丸(着底トロール)
金星丸(計量魚探, 中層トロール)

2. 調査結果

【魚群分布】

- ・ 積丹半島以北海域では、2006年と異なりスケトウダラの分布は武蔵堆で少なく雄冬～石狩湾が多かった(図2)。分布密度は最大3尾/100m²(=アール当たり)であった。魚体サイズは水深300m以深で体長30cm以上の分布が見られたが、それより浅い海域では15～25cmの2006年生まれが主体となっていた。さらに、武蔵堆の東側では体長10cm前後の2007年生まれの分布が確認された(図3)。
- ・ 岩内湾海域では、2006年と同程度の分布量であったが、最大で10尾/100m²の強い反応が見られた。魚体は体長40cmを中心に35～45cmが多かった。
- ・ 桧山海域では2006年は奥尻島南側に分布が多かったが、2007年は奥尻島の東側と北海道本島との間に多く最大で33

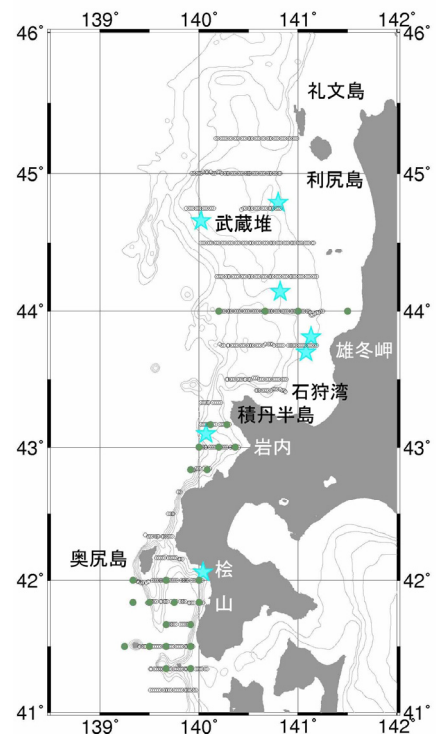


図1 調査海域. 直線は魚探調査ライン, ★はトロール位置, ●は海洋観測位置を示す。

尾/100m²程度の強い反応が見られた。魚体サイズは 39~46cm が多かった。分布深度は 2006 年よりもやや深めで 400m と 450m に分布の山が見られた(図 5)。

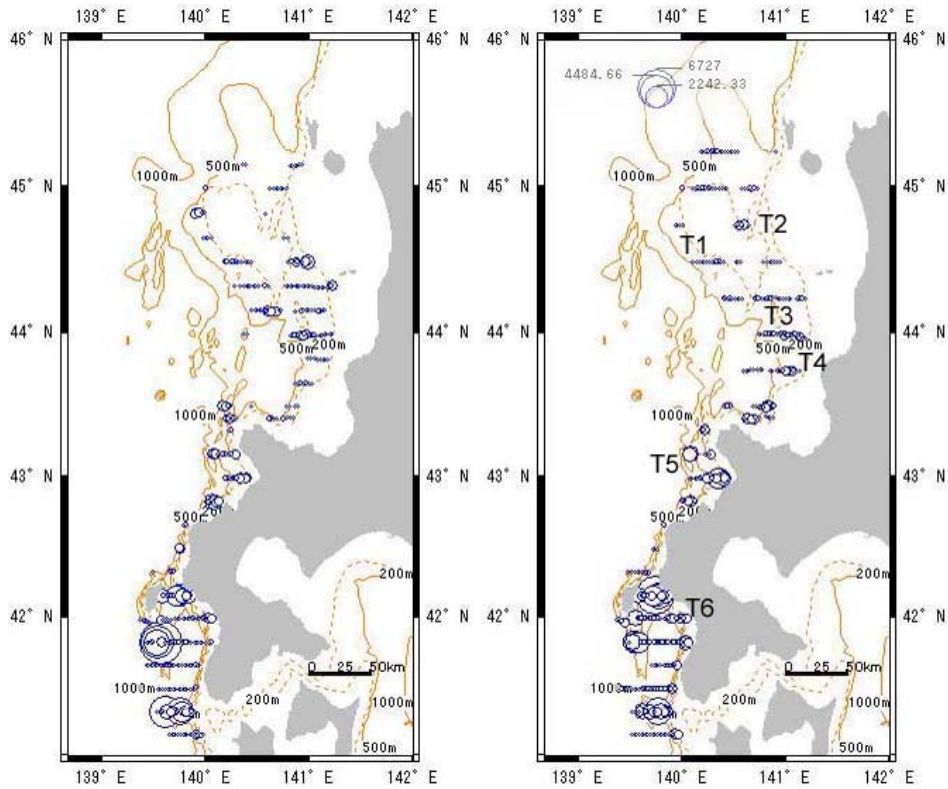


図2 スケトウダラ分布図(魚探反応量), 左:2006年, 右:2007年
 図中の T1~T6 は図3と対応する

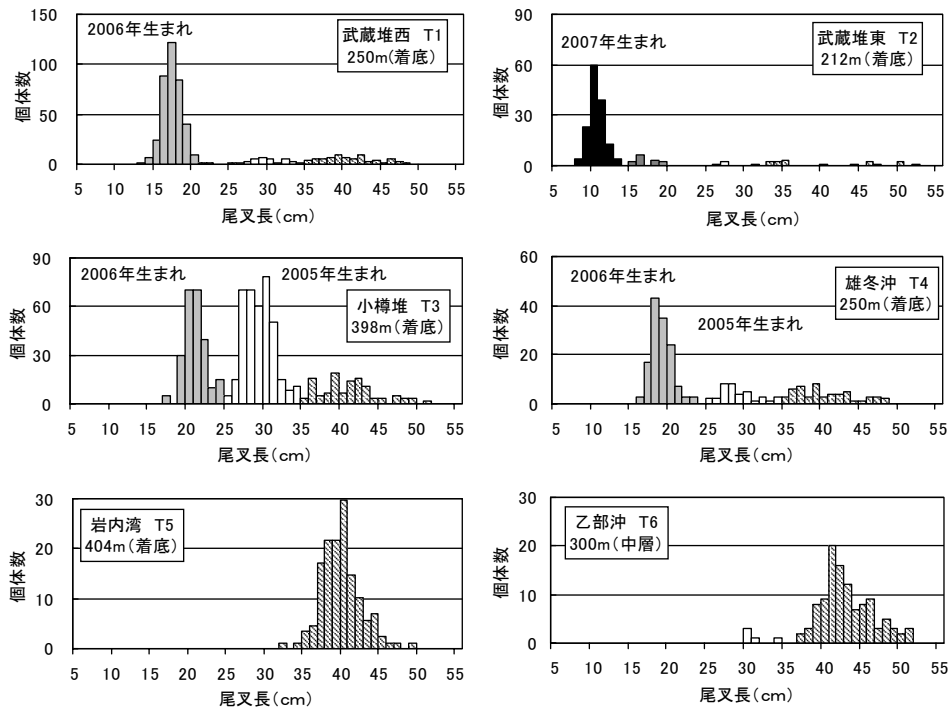
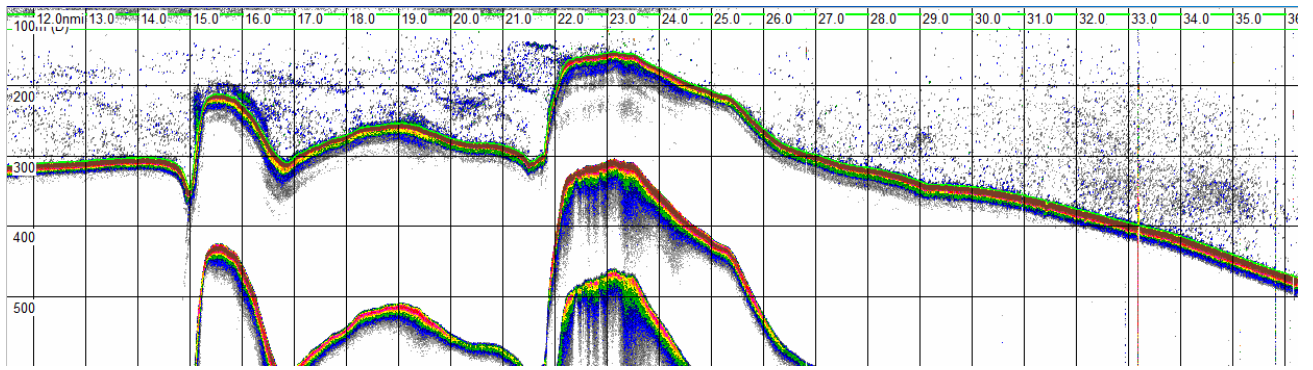
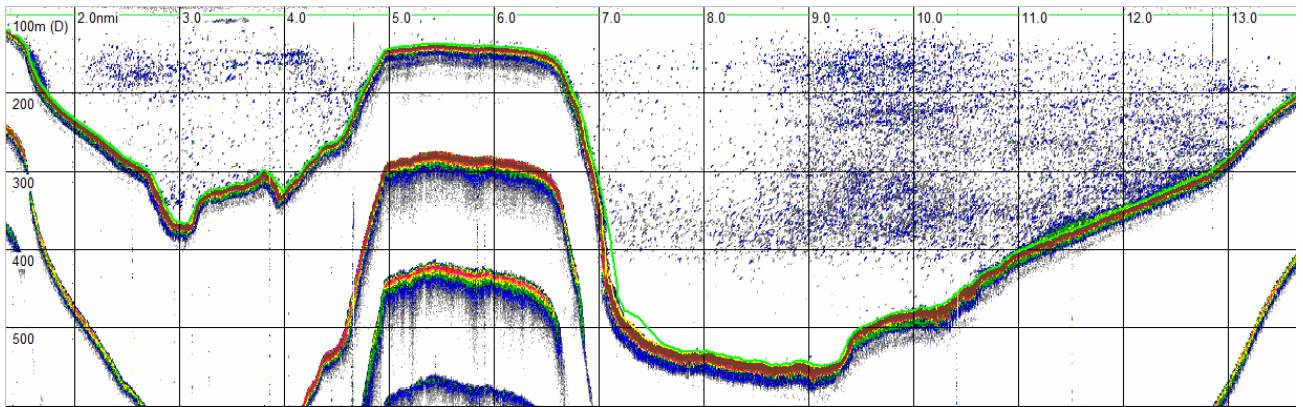


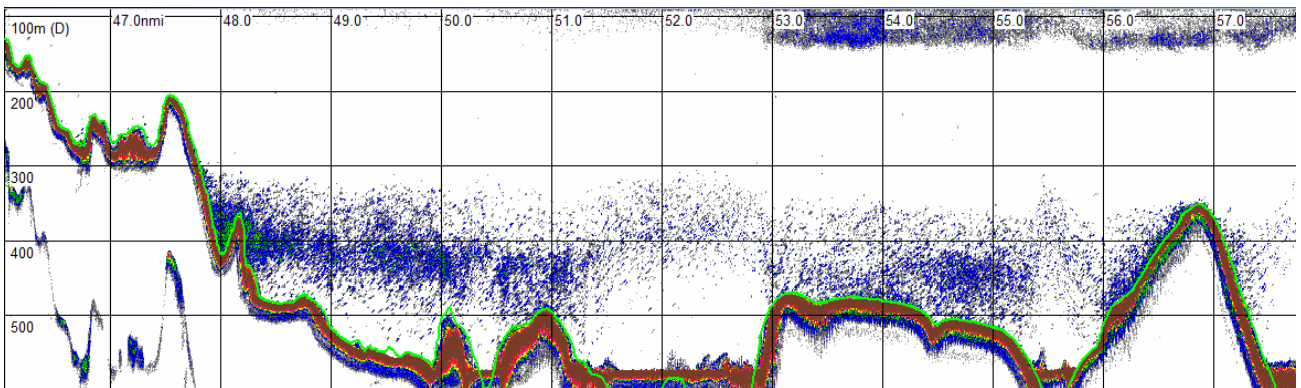
図3 トロール調査で採集されたスケトウダラの体長(尾叉長)
 黒:2007年, 灰色:2006年, 白:2005年生まれを示す



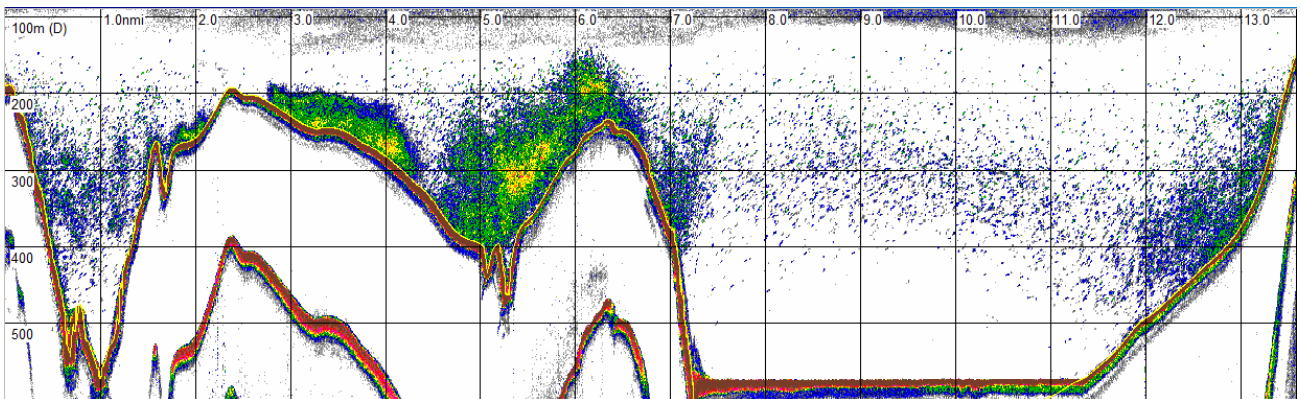
小樽堆～武蔵堆南部 北緯 44 度 15 分ライン(東→西)



石狩湾 北緯 43 度 25 分ライン(東→西)



岩内湾 北緯 43 度ライン(東→西)



桧山海域 北緯 42 度 10 分ライン(東→西)

図4 スケトウダラの魚探反応図

【水温環境】

- 100m 層水温水平分布を見ると 8℃以上の高水温域が沿岸に広く広がり、スケトウダラの分布条件としては好ましくない。
- また、2006 年と異なり暖水渦が積丹半島沖に見られないことから、スケトウダラ分布の石狩湾、岩内湾への比率が高まる来遊パターンになる可能性がある。

3. 漁況予報

調査海域全体の分布量は 7 万 4 千トンとなり、過去最低の結果となった(図 7)。特に武蔵堆海域や積丹沖の分布量が減少し、さらに雄冬沖では未成魚が主体なので、沖合底曳網漁業の漁獲量は昨年をさらに下回ると考えられる。

南部海域では 2006 年よりも分布量がやや減少しているが、水温環境が昨年と異なることから地域により漁況が異なる可能性がある。桜山海域では分布量も減少し分布深度も深いことから漁獲量は昨年を下回ると考えられる。

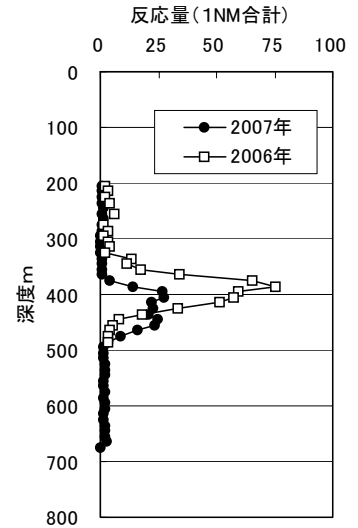


図5 桜山海域(乙部沖)におけるスケトウダラの分布深度

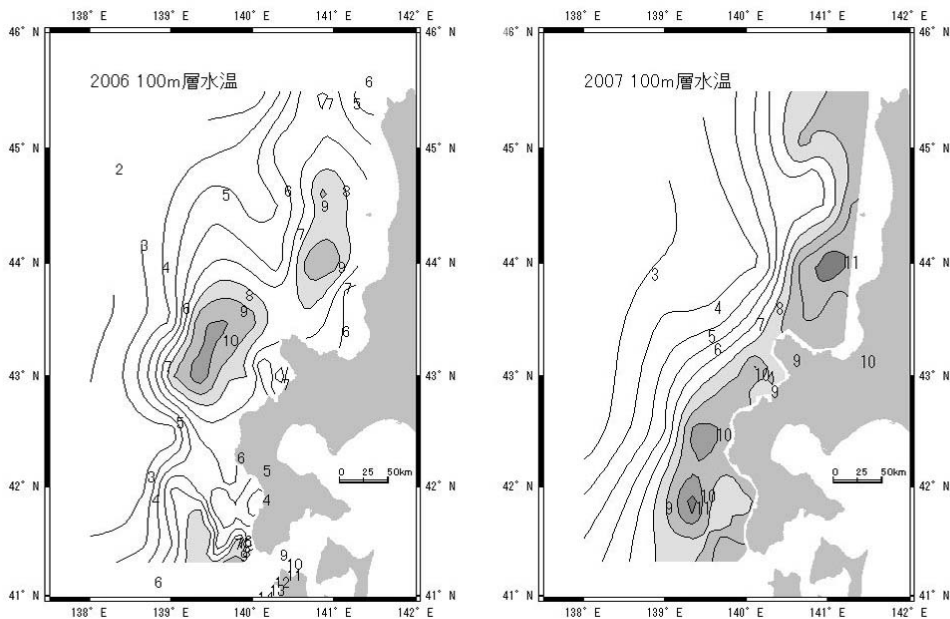


図6 道西日本海 100m 層水温分布図(塗りつぶした範囲は産卵場としては適当でない水温範囲)

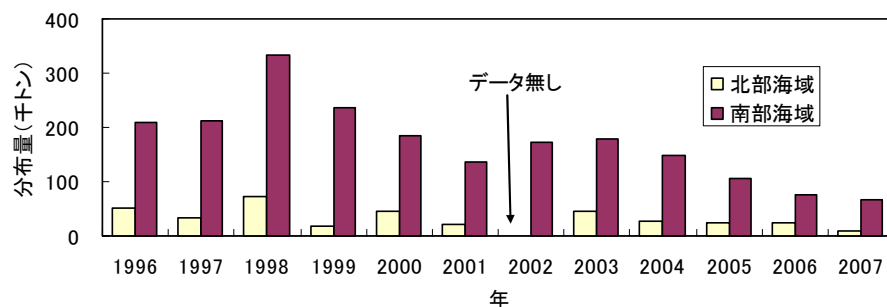


図7 スケトウダラ分布量(北部と南部海域の境界は北緯 43 度 30 分)